

「福まき」新たな風物詩に

ボランティア団体、福山で1日



福山市のボランティアは2月1日、豆まきイベ
ント「福まき」を福山市

得なかつたのだ。

さらに大いなる義務を果たそうとすれば、出兵に伴う膨大な軍資金の調達が必要となった。元治元年の第1次長州征討以来、西日本の各地は連年にわたって日照りや猛烈な台風被害に襲われており、米作は通常の6割程度しか収穫されていない。

(凶作のさなかに年貢を上げることが何としても避けねばならぬ。さりとて城下にも暮らす豪商たちへの献金要請は幾度も繰り返しており、公然と断る者も出ているという。いかにすれば出兵の資金が賄えるのか…)

とどのつまり二律背反の堂々巡り、奈落へのスパイラルに落ち込んでしまふ。どうあがいても答えの出ぬ苦しみに正方の胸は八つ裂きとされ、それは徐々にであったが、彼の身体をむしばみ始めていた。

正方の変調に誰よりも早く気付いたのは、彼の身の回りを世話する小夜であった。諦次郎と呼ばれていたころより影のように寄り添ってきた小夜には正方の声音や瞳の輝き具合、足首の変化ひとつにさえも体調の良しあしを察するのことができるのだ。

「殿さま。いままし、休養を遊ばしませ。お疲れが取れませぬゆえ…」

重ねて進言するのだが、正方は小さくうなずくだけだった。

まるで何かに取りつかれたかのよう
に愛馬の鉄覆山にまたがり、城を後に
して領内の巡検へと出かけてゆくので
ある。

火曜日に掲載します

「福まき」に向けて袋入りの豆やカプセルを準備する徳永製菓の従業員たち

丸之内の福山城天守前広場で開く。福山の新たな風物詩にと2017年に始め、7回目。

豆まきは午前10時半、11時半、午後0時半、2時、3時の5回で、各回先着500人が参加できる。豆菓子製造の徳永製菓(同市胡町)が特別協賛し、袋入りの豆計約2万個を準備。市内の店舗で使える商品券や食事券などが当たるカプセルもまく。

午前10時半と11時半、午後1時半の3回、未就学児や低学年の小学生を中心とした子ども向けもある。各回先着100人。会場では和太鼓や大道芸のパフォーマンスのほか、能登半島地震の被災地支援を目的とした特産品の販売やたる募金も企画する。

KOREFFUKUの担当者は「イベントを通じ、福山イコール『福のまち』として認知度を高めていきたい」と話している。

(浜村満大)

事件・事故

覚醒剤使用の疑いで再逮捕
福山東署は27日、府中市中須町、自営業藤坂透容疑者(51)＝窃盗罪で起訴＝を覚醒剤取締法違反(使用)の疑いで再逮捕した。

再逮捕容疑は、今月上旬から16日までの間に、同市内か周辺で覚醒剤を使用した疑い。

藤坂容疑者は、福山市の保育士女性(51)＝窃盗容疑で処分保留＝と共謀して2023年9月、同市入船町のスーパーで日本酒などを盗んだとして、今月16日に同署に逮捕されていた。尿検査で覚醒剤の陽性反応が出たという。

不同意わいせつの疑い

尾道署は27日、尾道市沖側町、無職道岡邦彦容疑者(77)